



編集後記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-05-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森岡, 次郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/14442

編集後記

『人間科学』の第10号をお届けいたします。執筆者の方々には、貴重な研究成果をご寄稿いただき、ありがとうございました。

今号より編集担当が変更となり、至らない点が多々あったかと思えます。初回に免じてご寛恕いただければ幸いです。

ますます社会情勢が流動化し、複雑化するなかで、社会規範は固着化し、極度に単純化しつつあるように思えます。宗教、文化、民族、経済などに起因する軋轢や対立、歴史をめぐる諸問題、心理的病理や学校教育の問題などが噴出するなかで、これらの複雑な問題について、巷では驚くほど単純な解法が語られています。

こうした状況においてこそ、社会・文化・人間に関する学術研究、私たちの「人間科学」研究が重要な役割を果たすことができる、と考えています。とはいえ、実は社会科学や人文科学が重要でない時代など、なかったのかもしれない。

平板な人間理解に対して厚みを持たせること。多様な学問的視座から、社会の諸問題を立体的に描き出すこと。現代、日本、という狭い範囲の価値観を棚上げにすること。

編集作業を進めながら、こうした学的な営みを、人間科学専攻の同僚諸氏とともに私自身も続けていきたい、と意を新たにしました。

本誌『人間科学』は、紀要という性質上、たとえば学会誌や商業誌と比べても、文字数や形式などについては柔軟に対応することが可能です。ぜひ、次号以降にも多くの方からのご投稿をお待ちしております。また、本誌に掲載された論攷から多様な議論が開かれていくことを期待しています。

本誌を通じて私たちの研究成果を発信し続けることが、人間科学専攻にとって、また文系の学術研究にとっても重要であると思ひながら（大仰ですが）、編集の任に当たりたいと思います。

(文責 森岡次郎)